

事例①

知的障がい特別支援学級における自立活動 自己理解

授業づくりの視点

◆経験の浅い先生たち、学級でこんなこと感じていませんか？

- 自立活動の指導で、どんなことに取り組んだらよいか分からない。
- 生徒の発達の段階に応じてどのように自己理解を促したらよいか又、他者との関わり方をどのように身に付けさせたらよいか分からない。

① 自立活動の時間における指導

ファーストステップ！

◆例えば、「自立活動」で、こんなことからはじめてみましょう。

- ☐ 自立活動「自分を知る～わたしの説明書づくり～」 ☐ 中学校 ☐ 特別支援学級（知的障がい）

本時の目標

- ・自分のよさを受け入れ、自分の特徴を自分の言葉で表現することができる。
- ・自己の課題を捉えることができる。

ファーストステップ②

・自分や他者のことを考えやすくする教材の工夫

→○×で記入する自己理解、他者理解のワークシートの活用

	学習活動	手立て／留意点
導入	○ ウォーミングアップ ○ 目標の確認	※学習の目的（ゴール）を説明する
展開	○ 自分を知ること ○ 相手のことを知る ○ ワークシート「わたしはこんな人・あなたはこんな人」 ○ 自己の課題と向き合う	※日常の自分自身の行動を振り返りながら記入できるように個別の声かけの支援
終末	○ 学習の振り返り	

ファーストステップ①

- ・発達の段階の異なる生徒が同一の学級に在籍しているため、**個別に設定した目標**をタブレット端末を活用して確認できるようにしましょう。
- ・本授業を通して「**こんな姿に成長してほしい**」という**具体的な姿を提示**しましょう。

ファーストステップ③

- ・自身と向き合い、心の中を素直に言語化できるように**共感し、安心感を与える丁寧な対話**を繰り返しましょう。
- ・日常的な生徒との関係づくりも大切な要素となります。

